

昭和53年度漁況海況予報事業

川 口 哲 夫

1. 実 施 状 況

(1) 実施機関および担当者名

鳥取県水産試験場

境港分場長 佐 野 茂

研 究 員 川 口 哲 夫

第一鳥取丸乗組員 13名

(2) 沿岸定線調査

イ、実施調査船

船 名 第一鳥取丸

船長名 早 野 一 成

乗組員数 13名

調査船要目

屯数 99.14トン、馬力400HP、速力8.5ノット、測深機3HP、ワイヤー長1,500米
魚群探知機

機 種 産研製T・L-16(379)型

周波数 28KC、75KC、200KC

測深範囲 0～1,600m、記録紙湿式

その他の観測機器

B・T、防・被圧転倒寒暖計、電気水温計、透明度板、転倒採水器、(特)ネット、

Norpac-Net、(稚)ネット長さ4.5m、口径130cm

ロ、観測定線概要図(別図のとおり)

ハ、調査項目

気象(天候、風向、風力、気温、気圧、雲量、雲形)

海象(水色、透明度、波向、波浪、ウネリ、海深、汐目、海鳥、海光、変色水、急潮、海鳴、海流)

魚卵、稚魚、プランクトンの採集

測温(観測層 0, 10, 20, 30, 50, 75, 100, 150, 200, 300m)

塩検用採水(観測層 同上)

ニ、実施概要

調査年月日	船名	測点数	欠測点数	調査員名	備考
4月4日～13日	第1鳥取丸	30	3	早野一成 (川口哲夫)	
6月6日～8日	〃	33	0	〃	
8月1日～2日	〃	14	2	〃	
10月2日～3日	〃	20	0	〃	
10月30日～31日	〃	16	0	〃	
3月3日～19日	〃	33	0	〃	

③ 漁場一斉調査

イ、実施調査船

沿岸定線調査と同じく第1鳥取丸を使用し調査船要目も同様である。

ロ、観測定線概要図

別図のとおり

ハ、調査項目

気象・海象・卵稚仔・プランクトン採集・測温・塩検用採水については沿岸定線観測と同じであるが、このほかにスルメイカ釣獲試験を実施した。

ニ、実施概要

調査年月日	船名	測点数	欠測点数	調査員名	備考
9月7日～11日	第1鳥取丸	29	2	川口哲夫	

2. 調査研究結果

(1) 海洋状態の推移と特徴

4月

4月上・中旬の山陰沖合における海況は、表面水温が沿岸部で13～14℃、沖合海域で10～12℃台、50m層では沿岸部で12～13℃、沖合では9～11℃台で経過しており、暖水域は日御碕沖より隠岐島西側に張り出し隠岐島北方には暖水域が形成されていた。

島根沖冷水域は竹島海域より隠岐島の西側に張りだし、山陰・若狭沖冷水域はオキ堆海域より鳥取・兵庫沖合に張り出しその勢力は強い。水温の年差は表面・50m層ともに沿岸部では年並・沖合では1～2℃低目に経過した。

5月

5月上旬の海況は表面水温が沿岸部で16～17℃、沖合で14～15℃、50m層では沿岸部で14～15℃、沖合では10～13℃台で経過していた。暖水域は隠岐島より北方に広がっており、島根沖冷水域は竹島東沖より南に張り出し、一方、山陰・若狭沖冷水域はオキ堆より南東に張り出していた。水温の平年差は表層では沿岸部で1℃高目、沖合では平年並かやや低目、50m層では沿岸部でやや高目、沖合では1℃低目であった。

6月

6月上旬の山陰沖合における海況は表層水温が沿岸部で19～20℃、沖合では15～18℃、50m層では沿岸部で16～17℃、沖合域では10～15℃で経過していた。暖水域は隠岐島より北東に広がりオキ堆上にその中心あり、一方、竹島近海にも暖水域の張り出しがみられた。冷水域は隠岐島北方より強く張り出しており、若狭湾沖合には局所的な冷水域がある。水温の平年差は表層では沿岸部が1℃～やや高め、沖合では1℃低め、50m層では沿岸部で1℃～やや高め、沖合では冷水域上で1～2℃低め、暖水域上では1～3℃高めであった。

7月

7月上旬の海況は表面水温が沿岸部で22～24℃、沖合では20～22℃、50m層では沿岸部で16～20℃、沖合では8～15℃台であった。暖水域は隠岐島より北東に張り出しその先端は大和堆海域に達していた。冷水域は竹島北方より浜田沖に張り出し、一方、オキ堆北側にも冷水域があり網代沖に張りだしていた。水温の平年差は表面水温が沿岸・沖合ともに1℃高め、50m層ではほぼ平年並に経過した。

8月

8月上旬の山陰沖合の海況は表面水温が沿岸部で28℃、沖合で27℃台、50m層水温では沿岸部で18～23℃、沖合が13～16℃である。暖水域は隠岐島近海より大和堆西方海域に張りだしその勢力は強い。冷水域はウツリョウ島から竹島海域にかけて強く張り出し、一方、大和堆東部海域よりオキ堆海域に張り出した冷水域の先端は若狭沖に張り出していた。

水温の平年差は表面水温が沿岸部で1～2℃、沖合で2℃高めに経過した。

9月

9月上旬の山陰沖合の海況は表面水温が沿岸部で27～28℃、沖合では24～26℃、50m層では沿岸部で18～24℃、沖合では13～17℃であった。暖水域は島根県沖と鳥取・兵庫沿岸よりオキ堆上に張り出しており、冷水域は大和堆南部より隠岐島北方に強く張り出していた。

水温の平年差は沿岸部で平年並か1℃高め、沖合では平年並か1℃低めであり、50m層では暖水域上では2～4℃高め、冷水域上では2～3℃低めで経過した。

10月

10月上旬の海況は表面水温が沿岸部で24～25℃、沖合では23～24℃台、50m層では沿岸部で20～24℃沖合では19～14℃台で経過した。暖水域は日御碕北西とオキ堆上にあり、特に隠岐堆より北東に張り出す暖水域は強勢であった。冷水域は隠岐島北方にあってその勢力は強く隠岐島南東部に張りだしていた。

水温の平年差は表層では沿岸部で2℃高め、沖合では1℃高めであり、50m層では暖水域上で2～4℃高め、冷水域では1～3℃低めであった。

11月

11月上旬の海況は表面水温が沿岸部で20～21℃、沖合では17～20℃台、50m層が沿岸部で20～22℃、

沖合では16～20℃台であった。暖水域は隠岐島を中心として沿岸域に広がっており、冷水域は北緯37度以北にあって沿岸域に張り出していたが、特に竹島近海より浜田沖への張り出しが強い。本年の水温を平年値と比較すると表面では沿岸部で1℃高め、沖合では1℃低めであり、50m層では沿岸部で1～2℃高め、沖合では1～2℃低めに経過した。

2月

2月中旬の山陰沖合における海況は表面水温が沿岸部で13℃、沖合では10～12℃台であり50m層では沿岸部で12～13℃、沖合では9～12℃台であった。暖水域は島根沖より竹島海域に張りだし、一方、兵庫沖よりオキ堆海域にも張りだしていた。水温の平年差は表面、50m層ともに沿岸部で1℃高め、沖合では暖水域上で1℃高め、冷水域上では1℃低めであった。

3月

3月上旬の山陰沖合における海況は、表面水温が沿岸部で12～13℃、沖合では11～10℃、50m層では沿岸部で12～13℃、沖合では9～11℃であった。暖水域は日御碕沖合より隠岐島北側に張り出しており、冷水域はオキ堆より隠岐島北東海域に強く張り出し、一方、竹島海域よりも冷水域の張りだしが認められる。

水温の平年差は表面・50m層ともに沿岸部で1℃高め、沖合では1℃低めで経過している。

(2) 主要魚種の漁況の推移と特徴

4月

大・中型巾着網：漁獲量は15,256トン、1日1統当たり69トン、魚種の割合はサバ59%、マイワシ39%、アジ1%であった。本年の漁況はサバとマイワシの漁獲が好調で昨年よりは9,000トン増加し、一昨年とほぼ同じ水準であった。

小型巾着網：漁獲量は4,701トン、1日1統当たり28トン、魚種の割合はマイワシ83%、サバ11%、カタクチイワシ6%でマイワシ中羽の漁獲が良好で昨年より1,500トン増加した。

5月

大・中型巾着網：漁獲量は21,792トン、1日1統当たり62トン、魚種の割合はサバ88%、マイワシ8%、ウルメイワシ2%であった。

5月はサバ産卵群の未遊が極めて多く、昨年同期よりやや減少したものの漁況は極めて好調に経過した。

小型巾着網：漁獲量は7,145トン、1日1統当たり31トン、魚種の割合はマイワシ55%、サバ30%、ウルメイワシ8%、カタクチイワシ5%、その他2%であり、昨年同期よりは約3,000トン減少しているが、マイワシ・サバ主体に漁況は好調であった。

スルメイカ漁業：漁獲量は生船が338トン、1航海当たり1.3トン、冷凍船は216トン、1航海当たり6.8トンで合計554トンであった。本年も昨年と同じく秋生れ魚群の資源量が少なく、漁況は極めて不振であった。

6月

大・中型巾着網：漁獲量は8,166トン、1日1統当たり36トン、魚種の割合はマイワシ66%、サバ21%、ウルメイワシ8%、アジ1%であった。6月はサバの漁獲が急減したが、マイワシの漁獲が多く総漁獲量では例年並であった。

小型巾着網：漁獲量は2,716トン、1日1統当り11トン、魚種の割合はマイワシ47%、カタクチイワシ22%、ウルメイワシ13%、サバ13%、アジ1%、その他4%(タイ、イサキ、カワハギ)で漁況はやや低調であった。

スルメイカ漁業：漁獲量は生船が654トン、1航海当り24トン、冷凍船651トン、1航海当り12.8トンの合計1,305トンであった。6月に入って漁況はやや上向いたものの資源水準は昨年と同じく低水準であった。

7月

大・中型巾着網：漁獲量は6,980トン、1日1統当り28トン、魚種の割合はマイワシ37%、サバ31%、ウルメイワシ26%、カタクチイワシ5%、アジ1%であった。昨年よりは漁獲が半減したが7月としては例年並の漁獲であり、本年は例年に比較してウルメイワシの漁獲割合が多いのが特徴である。

小型巾着網：漁獲量は3,563トン、1日1統当り11トン、魚種の割合はマイワシ51%、ウルメイワシ22%、サバ8%、カタクチイワシ7%、アジ2%、その他(ハマチ・マルゴ主体)12%であった。マイワシは7月に入って0才魚の小羽イワシが漁獲対象となり漁況は順調に経過した。

スルメイカ漁業：漁獲量は生船が967トン、1航海当り4.5トン、冷凍船665トン、1航海当り16.2トンの合計1,632トンであった。総漁獲量、1航海当り漁獲量ともに最低であった昨年を下廻り漁況は極めて低調に経過した。

8月

大・中型巾着網：漁獲量は2,629トン、1日1統当り21トン、魚種の割合はウルメイワシ47%、マイワシ42%、サバ6%、カタクチイワシ2%、アジ2%でウルメイワシ中羽、マイワシ小羽主体に漁獲されたが夏枯期に入り漁況は低調に経過した。

小型巾着網：漁獲量は2,627トン、1日1統当り12トン、魚種の割合はその他(ハマチ・マルゴ主体)45%、マイワシ35%、ウルメイワシ14%、カタクチイワシ3%、サバ3%であり、ブリ類主体にマイワシ小羽を漁獲し漁況は好調であった。

スルメイカ漁業：漁獲量は生船が1,072トン、1航海当り5.4トンで冷凍船が775トン、1航海当り27.7トンの合計1,847トンであった。漁獲量は最低であった昨年をさらに下廻り、漁況は極めて低調であった。

9月

大・中型巾着網：漁獲量は3,138トン、1日1統当り15トン、魚種の割合はマイワシ43%、サバ18%、ウルメイワシ16%、アジ11%、カタクチイワシ10%でマイワシ小羽、ウルメイワシ小中羽主体に漁獲されたが漁況は低調で近年のなかでは最低であった。

小型巾着網：漁獲量は2,076トン、1日1統当り12トン、魚種の割合はマイワシ47%、ウルメイワシ21%、その他(ハマチ・マルゴ主体)16%、カタクチイワシ10%、アジ4%、サバ2%であり、マイワシ、ウルメイワシ小羽主体にブリ類、カタクチイワシが漁獲され漁況は好調に経過した。

スルメイカ漁業：漁獲量は生船が1,321トン、1航海当り5.7トン、冷凍船が281トン、1航海当り31.2トンの合計1,602トンであった。漁獲量は昨年同月を下廻って低調であったが、1航海当りでは生船、冷凍船ともに多く、特に冷凍船は高水準となっていた。

10月

大・中型巾着網：漁獲量は957トン、1日1統当り7トン、魚種の割合はサバ33%、ウルメイワシ21

%、マイワシ14%、アジ14%、その他（ハマチ・マルゴ主体）12%、カタクチイワシ5%であり、小サバ、ウルメイワシ小羽主体に漁獲されたが、昨年と比較して半減し近年では最低となった。

小型巾着網：漁獲量は782トン、1日1統当り6トン、魚種の割合はその他（ハマチ・マルゴ主体）57%、ウルメイワシ20%、マイワシ13%、サバ6%、アジ5%であり、ブリ類主体にウルメイワシ小羽を漁獲したが、マイワシ小羽の魚群が沖合化したため沿岸海域への来遊が少なく漁況は低調に経過した。

スルメイカ漁業：漁獲量は生船が606トン、1航海当り4.2トン、冷凍船が542トン、1航海当り25.8トンの合計1,148トンであった。漁獲量は昨年同期とほぼ同じであるが漁況は低調に経過した。

11月

大・中型巾着網：漁獲量は866トン、1日1統当り7トン、魚種の割合はその他（ハマチ・マルゴ主体）68%、サバ18%、アジ11%、ウルメイワシ2%でブリ類主体に漁獲されたが、漁場水温が高温で経過したため沿岸の漁場にサバ、イワシ魚群の来遊がみられず漁況は極めて低調で、11月としては近年の最低であった。

小型巾着網：漁獲量は825トン、1日1統当り6トン、魚種の割合はその他（ハマチ・マルゴ主体）77%、カタクチイワシ9%、アジ7%、サバ5%、ウルメイワシ2%でブリ類主体に漁獲され、マイワシ小羽の魚群が来遊せず漁況は低調であった。

スルメイカ漁業：漁獲量は生船が831トン、1航海当り5.9トン、冷凍船は1,224トン、1航海当り255トンの合計2,055トンであった。本年は11月に入って漁況は極めて好調に経過し昨年、一昨年に比較して漁獲量、1航海当りとも増加した。

12月

大・中型巾着網：漁獲量は13,895トン、1日1統当り57トン、魚種の割合はマイワシ71%、サバ12%、ウルメイワシ6%、その他（ハマチ主体）6%、カタクチイワシ1%、アジ1%であった。本年はサバ魚群の来遊が少なかったが、マイワシの南下群が隠岐周辺漁場に大量に来遊し、また、暖冬で高水温のためか12月に入ってもハマチの漁獲がみられ漁況に異変が認められた。

小型巾着網：漁獲量は936トン、1日1統当り7トン、魚種の割合はその他（ハマチ主体）51%、カタクチイワシ39%、ウルメイワシ5%、サバ3%、マイワシ2%、アジ1%であり、巾着網はハマチ主体に、船曳網がカタクチイワシを漁獲し漁況は好調に経過した。

スルメイカ漁業：漁獲量は生船が91トン、1航海当り2.0トン、冷凍船は279トン、1航海当り7.5トンの合計370トンであった。本年を冬生れ群の南下資減が極めて下なく漁況は不調であった。

1月

大・中型巾着網：漁獲量は5,274トン、1日1統当り40.3トン、魚種の割合はサバ49%、マイワシ31%、ウルメイワシ12%、その他（タチウオ主体）7%であった。先月につづいて暖冬で水温も高めに経過しており、大・中羽イワシの好漁がみられたものの、サバ越冬群の来遊が少なく、昨年・一昨年に比較すると漁況は極めて低調であった。

小型巾着網：漁獲量は567トン、1日1統当り11.8トン、魚種の割合はカタクチイワシ56%、マイワシ26%、サバ17%であった。巾着網では大・中羽マイワシ主体に、船曳網ではカタクチイワシの好漁獲がみられた。

スルメイカ漁業：漁獲量は生船が36トン、1航海当り0.4トン、冷凍船は154トン、1航海当り9.1トンの合計190トンであった。先月につづいて冬生れ群の漁況は極めて低調に経過した。

2月

大・中型巾着網：漁獲量は5,903トン、1日1統当り38.3トン、魚種の割合はサバ80%、マイワシ9%、その他(カワハギ主体)6%、アジ3%、ウルメ3%であった。2月は小サバ主体の漁況であったが昨年と比較すると半減し漁況は低調に経過した。

小型巾着網：漁獲量は935トン、1日1統当り22.8トン、魚種の割合はマイワシ92%、カタクチイワシ7%、アジ1%であり、船曳網・巾着網ともに大・中羽マイワシ主体に漁獲されてカタクチイワシの水揚げが減少した。

スルメイカ漁業：漁獲量は生船が41トン、1航当り0.4トンの水揚げのみで、冷凍船の漁獲はなかった。2月は終了期であり冬生れ群の来遊はほとんど認められず漁況は極めて低調に経過した。

3月

大・中型巾着網：漁獲量は7,866トン、1日1統当り42トン、魚種の割合はマイワシ55%、サバ35%アジ7%、その他3%であった。中羽マイワシと小サバ主体の漁獲で例年並の漁況であった。

小型巾着網：漁獲量は2,165トン、1日1統当り26トン、魚種の割合はマイワシ87%、サバ8%、ウルメイワシ1%、その他4%であり、漁況はマイワシ中羽主体に好調に経過した。

(3) 昭和53年における主要魚種資源の評価

イ、マアジ

昭和53年に大・中型巾着網で漁獲されたマアジの総漁獲量は1,140トンで全漁獲量に占める割合は1%でありほぼ昨年並の漁獲であった。本年度は9月に359トン、10月に138トンまた2月に137トンが水揚げされたがその他の月には50トン以下であり他魚種と比較すると漁獲は極めて少ない。

山陰沖合におけるアジ資源は、年々減少し本年度は過去最低の漁獲量であり、この海域におけるマアジ資源は極めて低水準である。

ロ、マサバ

昭和53年度に大・中型巾着網で漁獲されたマサバの漁獲量は59,905トンで総漁獲量に占める割合は59%であった。漁獲量の季節的な変動は1～2月の冬期の越冬魚群と4～5月の産卵群が好調であったが、夏・秋季には例年並に経過し漁況は低調であった。本年の特徴として11月下旬～12月にかけては暖冬のため異状高水温となり、越冬南下魚群の来遊がみられず漁獲量は例年の $\frac{1}{10}$ 以下と極めて低調であり年間の漁獲量も昨年よりは47,821トンも減少した。しかし、このことより山陰海域におけるサバ資源が急減したことは考えられず、漁場の環境変化によって南下越冬魚群の洄遊生態に変化が認められ沿岸越冬海域におけるサバ魚群の密度が疎となり漁況が不安定となったものと考えられる。

ハ、マイワシ

境港におけるマイワシの漁獲量は、大・中型巾着網が31,891トン、小型巾着網が15,193トンの合計47,084トンで昨年より10,304トン減少した。漁獲量の季節変動は3～7月の産卵北上群の漁獲が多かったものの、夏～秋期にかけての0才魚(小羽イワシ)魚群が高水温のため沖合化し漁況は極めて低調であった。

しかし、12月には暖冬のため大・中羽マイワシが大量に越冬南下し大・中型巾着網によって9,870トンが漁獲された。

山陰沖合におけるマイワシ資源は昭和48年より増加しており漁獲量では昨年より減少しているが資源量そのものは現在も増化傾向にあると考えられその資源は高水準である。

ニ、ウルメイワシ

昭和53年の境港におけるウルメイワシの漁獲量は、大・中型巾着網が6,364トン、小型巾着網では2,705トンの合計9,069トンであり、昨年より1,315トン多い。漁獲量の多い月は5～7月の産卵・北上群と7～10月の0才魚群が200～1,500トン漁獲された。また、暖冬で高水温のため12月に入って大・中羽ウルメイワシの越冬群が来遊し多くの漁獲が認められた。

山陰沖合におけるウルメイワシの資源は低水準で推移しており本年はやや増加したものの急激な資源増は認められない。

ホ、カタクチイワシ

昭和53年の境港におけるカタクチイワシの漁獲量は大・中型巾着網が508トン、小型巾着網が3,065トンの合計3,573トンであった。季節的には大型では9月に多く、小型では1月と3～7月、9月と1月に多くその他の月には少なく、特に秋季には極めて低調であった。

山陰沖合におけるカタクチイワシの資源水準は近年低水準で推移しているが昨年よりやや増加傾向となっている。

ヘ、スルメイカ

昭和53年の境港における沖合スルメイカの漁獲量は、生船が6,007トン、1航海当り3.7トン、冷凍船は4,938トン、1航海当り16.0トンの合計10,945トンで昨年よりは1,091トン少ない。

日本海沖合におけるスルメイカの資源水準については昭和52年より急減し本年は過去最低の水準となり秋生れ系群、冬生れ系群ともに資源状態が極めてわるかった。

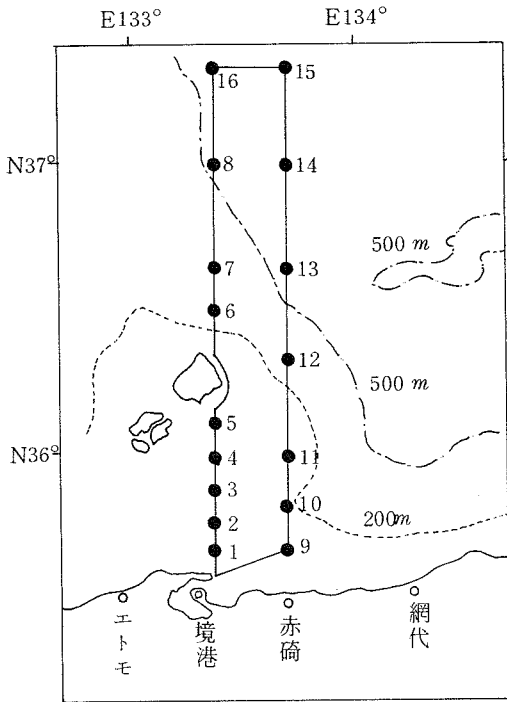


図1 沿岸定線定点図

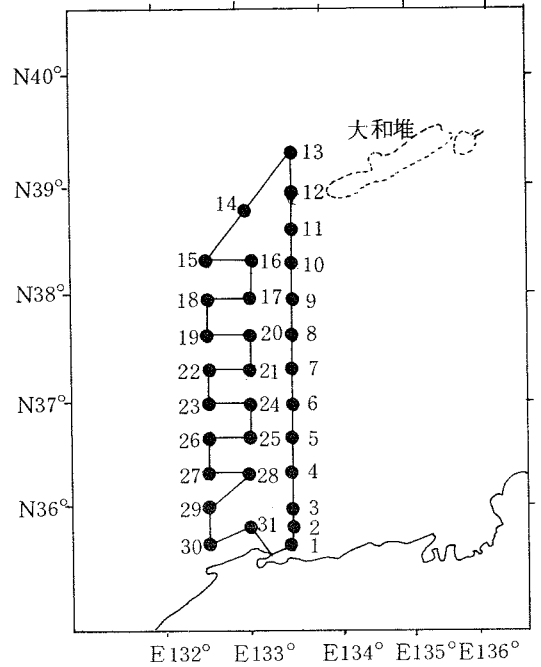


図2 スルメイカ漁場一斉調査定点図

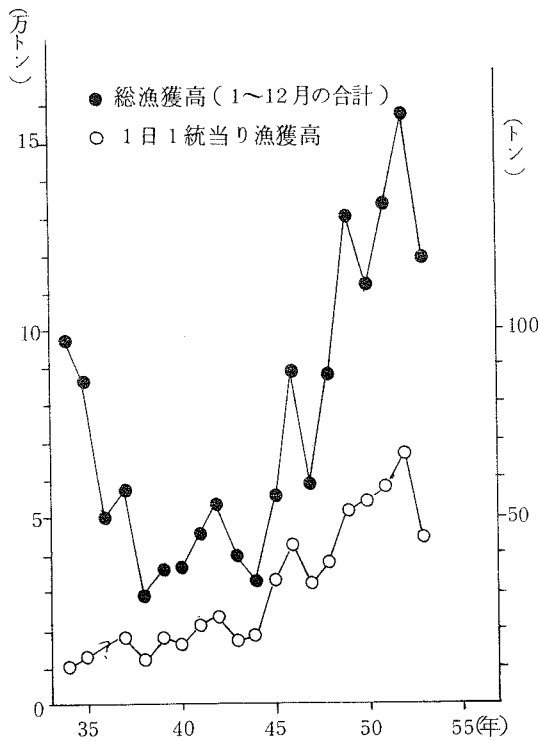


図3 境港における巾着網漁獲量の経年変化 (大・中型巾着網)

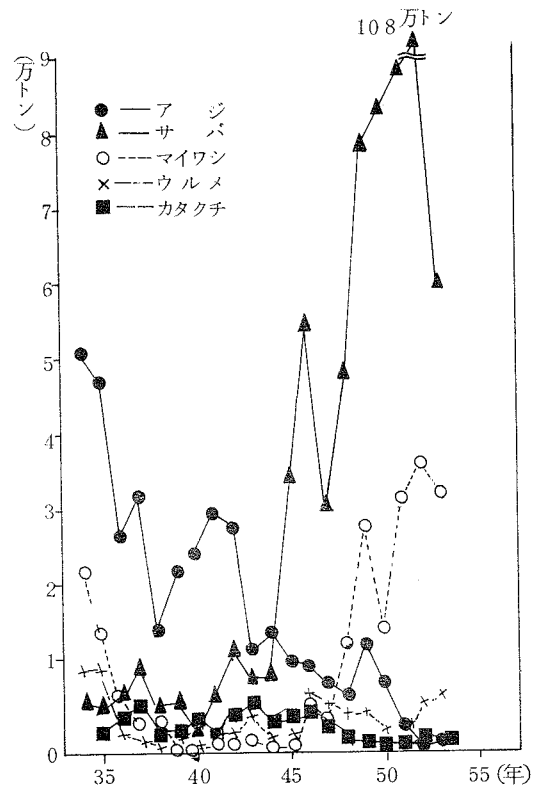


図4 境港における巾着網の魚種別経年変化 (大・中型巾着網)

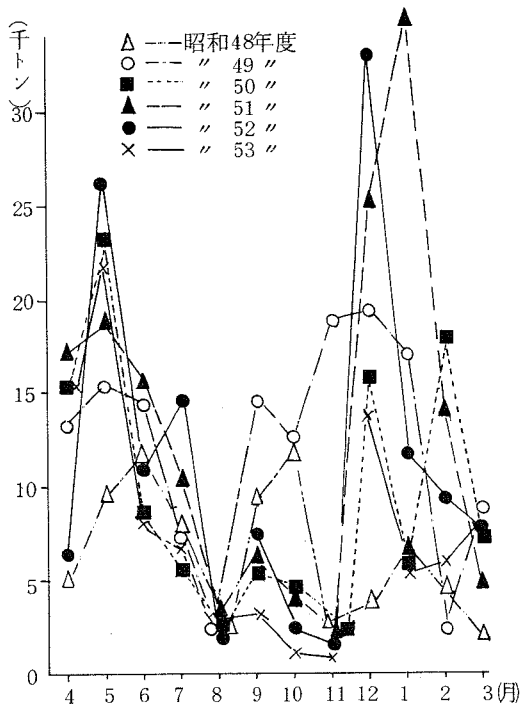


図5 境港における巾着網月別総漁獲高 (大・中型)

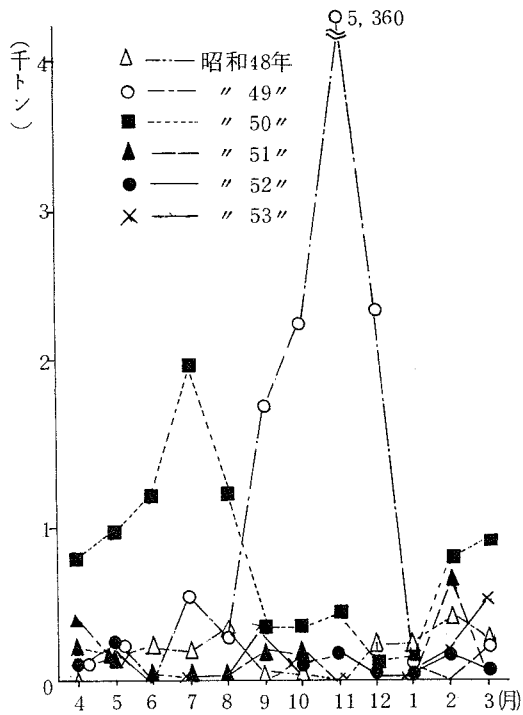


図6 境港におけるアジの月別漁獲高 (大・中型)

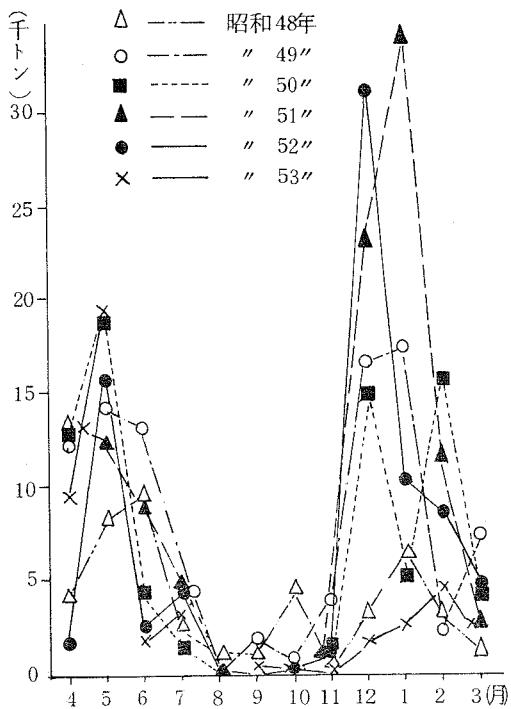


図7 境港におけるサバの月別漁獲高 (大・中型)

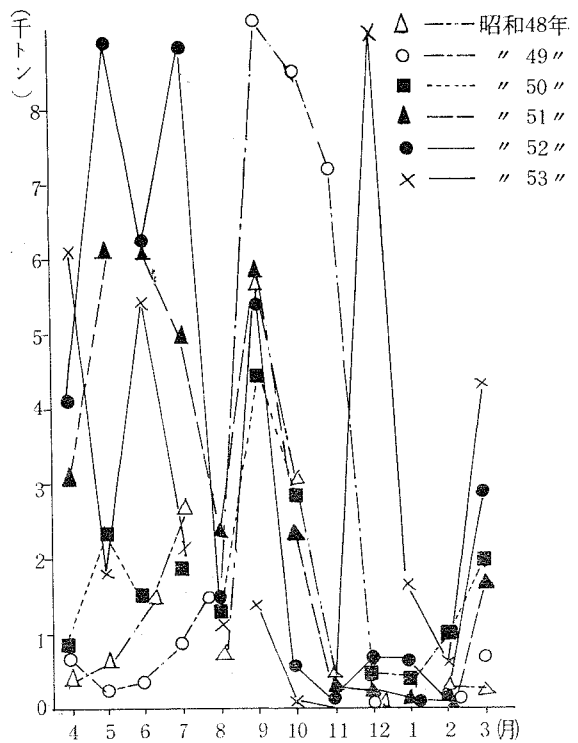


図8 境港におけるマイワシの月別漁獲高 (大・中型)

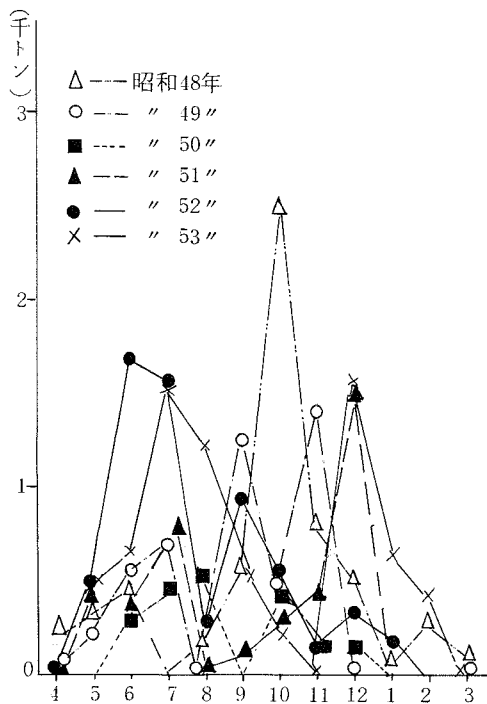


図9 境港におけるウルメイワシの月別漁獲高 (大・中型)

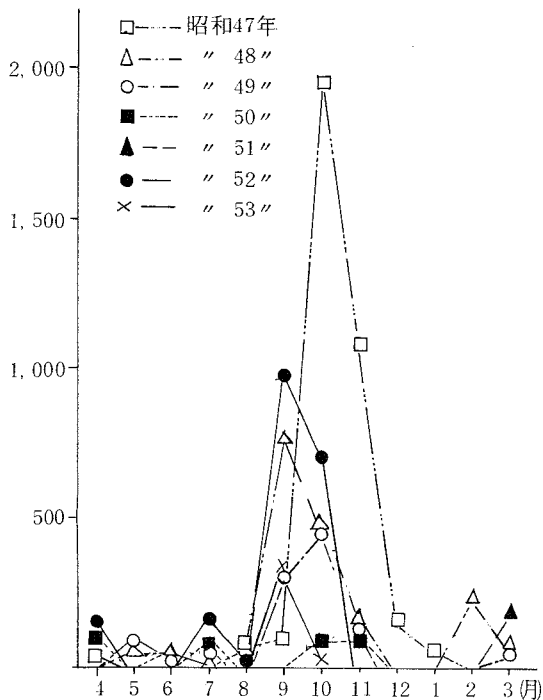


図10 境港におけるカタクチイワシの月別漁獲高 (大・中型)

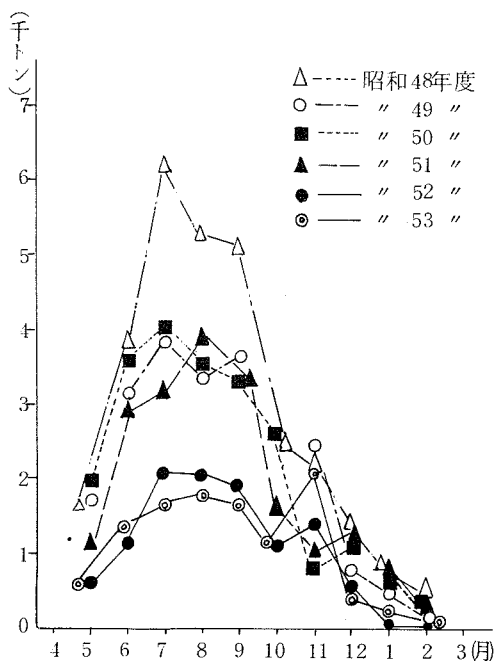


図11 境港におけるスルメイカ月別漁獲高

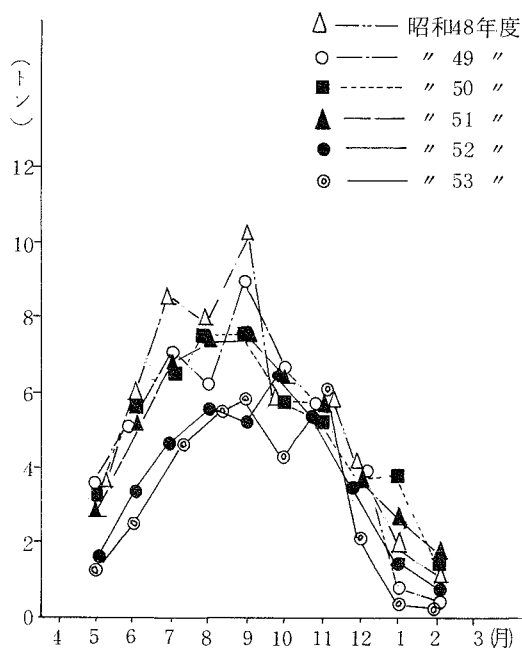


図12 境港におけるスルメイカ生船1航海漁獲量

表1-1(1) 1978年境港市着網漁獲高(大・中型)

(注) ()内は%

月	総漁獲量 (トン)	延出漁 統 数	1日1統 当り(トン)
1	11,632	95	122
2	9,121	130	70
3	7,528	115	66
4	15,256	220	69
5	21,792	352	62
6	8,166	226	36
7	6,980	252	28
8	2,629	128	21
9	3,138	212	15
10	957	141	7
11	866	131	7
12	13,895	243	57
計	101,960	2,245	45

月	かたくち		まいわし		うるめ		さば		あじ		その他	
	漁獲高 (トン)	1日1統 当り(トン)	漁獲高 (トン)	1日1統 当り(トン)	漁獲高 (トン)	1日1統 当り(トン)	漁獲高 (トン)	1日1統 当り(トン)	漁獲高 (トン)	1日1統 当り(トン)	漁獲高 (トン)	1日1統 当り(トン)
1			889 (8)	9.4	105 (1)	1.1	10,337 (89)	108.8	35	0.4	266 (2)	2.8
2			294 (3)	2.3	1		8,589 (94)	66.1	137 (2)	1.1	100 (1)	0.8
3	14		2,881 (38)	25.1			4,569 (61)	39.7	50 (1)	0.4	14	0.1
4			6,013 (39)	27.3	49	0.2	9,052 (59)	41.1	47	0.2	95	0.4
5	8		1,804 (8)	5.1	494 (2)	1.4	19,346 (88)	55.0	75	0.2	65	0.2
6	38	0.2	5,409 (66)	23.9	655 (8)	2.9	1,970 (24)	8.7	53 (1)	0.2	41 (1)	0.2
7	27		2,133 (31)	8.5	1,523 (22)	6.0	3,207 (46)	12.7	71 (1)	0.3	19	0.1
8	60 (2)	0.5	1,106 (42)	8.6	1,226 (47)	9.6	167 (6)	1.3	39 (2)	0.3	31 (1)	0.2
9	312 (10)	1.5	1,361 (43)	6.4	515 (16)	2.4	551 (18)	2.6	359 (11)	1.7	40 (1)	0.2
10	49 (5)	0.4	131 (14)	0.9	202 (21)	1.4	320 (33)	2.3	138 (14)	1.0	117 (12)	0.8
11	-		-		20 (2)	0.2	160 (18)	1.2	97 (11)	0.7	589 (68)	4.5
12	-		9,870 (71)	40.6	1,574 (11)	6.5	1,637 (12)	6.7	39	0.2	775 (6)	3.2
計	508 (1)	0.2	31,891 (31)	14.2	6,364 (6)	2.8	59,905 (59)	26.7	1,140 (1)	0.5	2,152 (2)	1.0

表1-(2) 1979年境港市着網漁獲高(大・中型)

(注 ()内は%)

月	かたくち		まいわし		うるめ		さ		あ		その他	
	漁獲高 (トン)	1日1統 当り(トン)	漁獲高 (トン)	1日1統 当り(トン)	漁獲高 (トン)	1日1統 当り(トン)	漁獲高 (トン)	1日1統 当り(トン)	漁獲高 (トン)	1日1統 当り(トン)	漁獲高 (トン)	1日1統 当り(トン)
1	0		1,649 (31)	12.6	651 (12)	5.0	2,588 (49)	19.8	22	0.2	364 (7)	2.8
2	0		529 (9)	3.5	201 (3)	1.3	4,690 (80)	30.9	159 (3)	1.0	324 (6)	2.1
3	0		4,321 (55)	23.2	10	-	2,789 (35)	15.0	526 (7)	2.8	220 (3)	1.2

月	総漁獲高 (トン)	延出漁 統数	1日1統 当り(トン)
1	5,274	131	40.3
2	5,903	152	38.3
3	7,866	186	42.3

表2-(1) 1978年境港市着網漁獲高(小型)

(注 ()内は%)

月	かたくち		まいわし		うるめ		さ		あ		その他	
	漁獲高 (トン)	1日1統 当り(トン)	漁獲高 (トン)	1日1統 当り(トン)	漁獲高 (トン)	1日1統 当り(トン)	漁獲高 (トン)	1日1統 当り(トン)	漁獲高 (トン)	1日1統 当り(トン)	漁獲高 (トン)	1日1統 当り(トン)
1	336 (77)	7.8	33 (6)	0.8	59 (14)	1.4	5 (1)	0.1	4 (1)	0.1		
2	99 (28)	3.5	238 (68)	8.5	8 (2)	0.3	2	0.1	4 (1)	0.1		
3	391 (16)	4.4	2,010 (80)	22.6			113 (4)	1.3	2		3	
4	294 (6)	1.7	3,909 (83)	22.9	2		488 (11)	2.9			8	
5	367 (5)	1.6	3,903 (55)	16.8	566 (8)	2.4	2,162 (30)	9.3	9		138 (2)	0.6
6	608 (22)	2.5	1,280 (47)	5.3	301 (13)	1.4	353 (13)	1.5	26 (1)	0.1	108 (4)	0.5

月	総漁獲量 (トン)	延出漁 統数	1日1統 当り(トン)
1	437	43	10
2	351	28	13
3	2,519	89	28
4	4,701	171	28
5	7,145	232	31
6	2,676	240	11

7	3,563	310	11
8	2,627	213	12
9	2,076	175	12
10	782	129	6
11	825	129	6
12	936	135	7
計	28,638	1,894	15

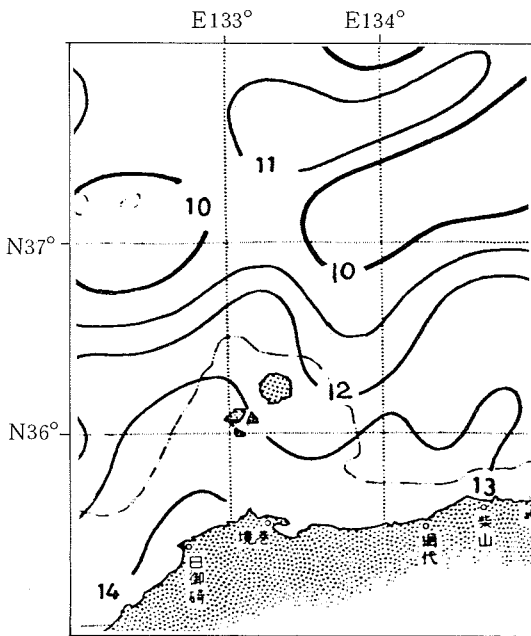
7	250 (7)	0.8	1,801 (51)	5.8	769 (22)	2.5	269 (8)	0.9	63 (2)	0.2	411 (12)	1.3
8	65 (3)	0.3	925 (35)	4.3	360 (14)	1.7	69 (3)	0.3	20	0.1	1,188 (45)	5.6
9	212 (10)	1.5	972 (47)	5.6	428 (21)	2.5	37 (2)	0.2	89 (4)	0.5	338 (16)	1.9
10	4		102 (13)	0.8	151 (20)	1.2	44 (6)	0.3	38 (5)	0.3	443 (57)	3.4
11	76 (9)	0.6	—		17 (2)	0.1	44 (5)	0.3	56 (7)	0.4	632 (77)	4.9
12	363 (39)	2.7	20 (2)	0.2	44 (5)	0.3	25 (3)	0.2	5		479 (51)	3.6
計	3,065 (11)	1.6	15,193 (53)	8.0	2,705 (10)	1.5	3,611 (13)	1.9	316 (1)	0.2	3,748 (13)	2.0

表2-(2) 1979年境港市着網漁獲高(小型)

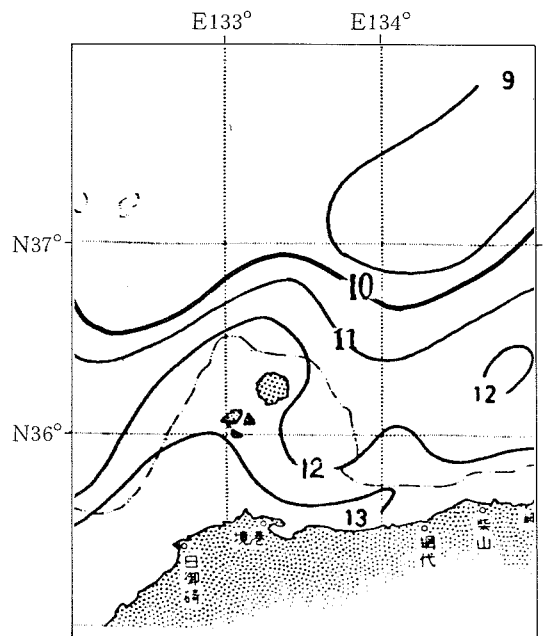
(注)内は%

月	総漁獲高 (トン)	延出漁 統数	1日1統 当り(トン)
1	567	48	11.8
2	935	41	22.8
3	2,165	84	25.8

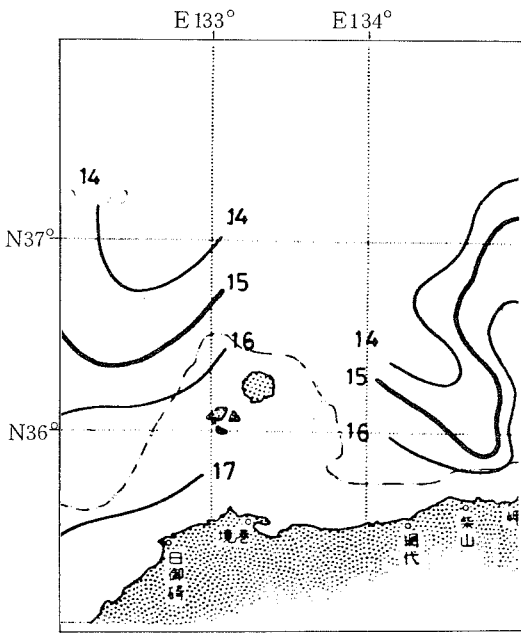
月	かたくち		まいわし		うるめ		さ		ば		あ		じ		その他	
	漁獲高 (トン)	1日1統 当り(トン)	漁獲高 (トン)	1日1統 当り(トン)	漁獲高 (トン)	1日1統 当り(トン)	漁獲高 (トン)	1日1統 当り(トン)	漁獲高 (トン)	1日1統 当り(トン)	漁獲高 (トン)	1日1統 当り(トン)	漁獲高 (トン)	1日1統 当り(トン)	漁獲高 (トン)	1日1統 当り(トン)
1	314 (56)	6.5	148 (26)	3.1	7 (1)	0.1	95 (17)	2.0	3 (1)	0.1	0					
2	65 (7)	1.2	856 (92)	20.1	—		4	0.1	10 (1)	0.2	0					
3			1,879 (87)	22.4	9 (1)	0.1	181 (8)	2.2	3	—	93 (4)	1.1				



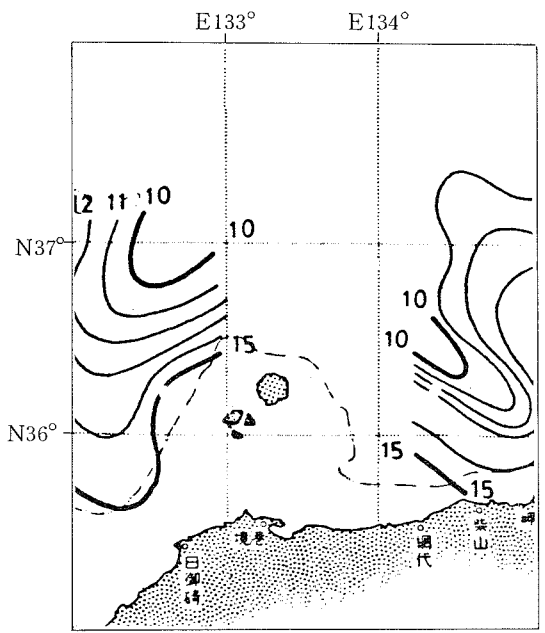
1978年4月上中旬
表面水温(°C)



1978年4月上中旬
50m層

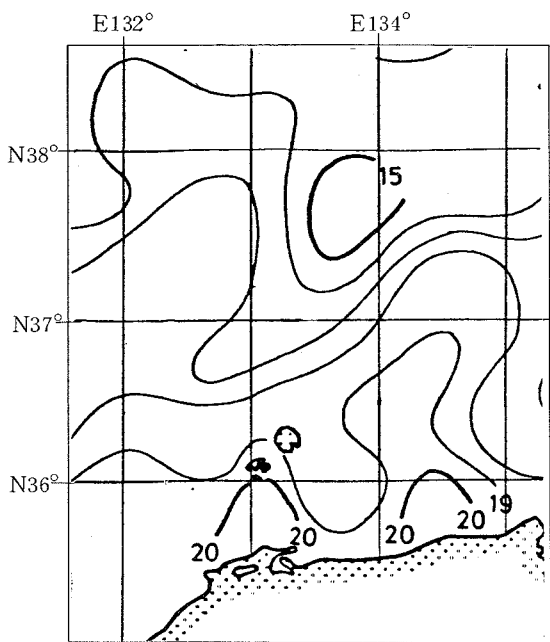


1978年5月上旬
表面水温(°C)

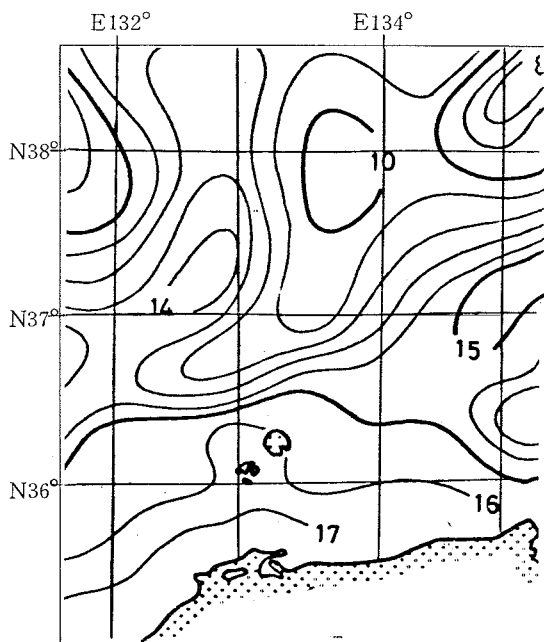


1978年5月上旬
50m層

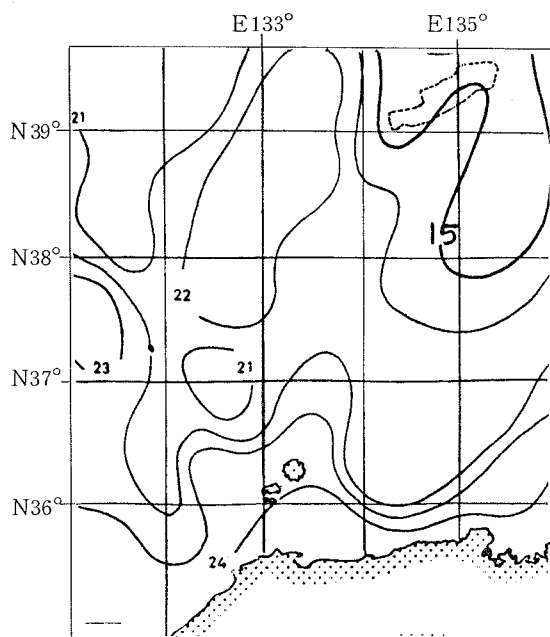
図13-(1) 鳥取県沖合の水温水準分布図



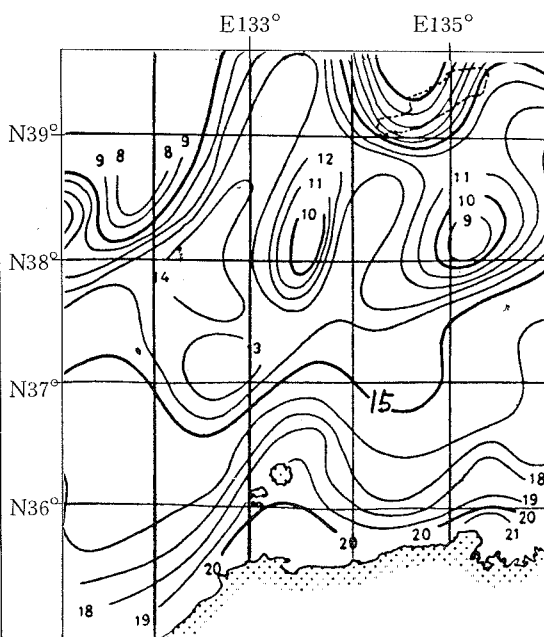
1978年6月上旬
表面水温(°C)



1978年6月上旬
50m層

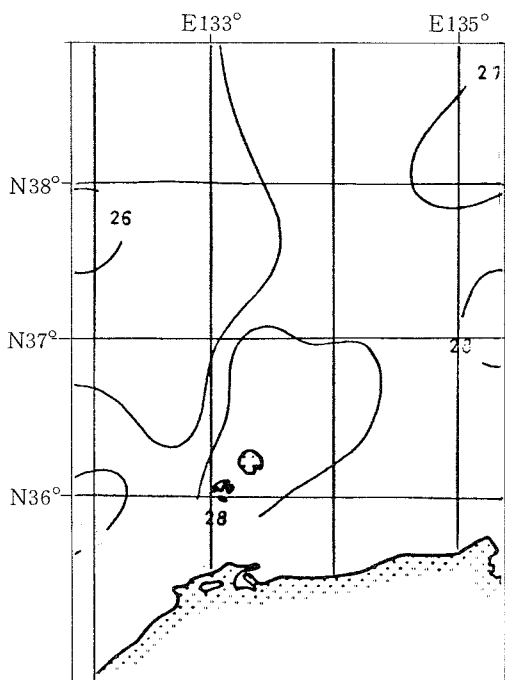


1978年7月上旬
表面水温(°C)

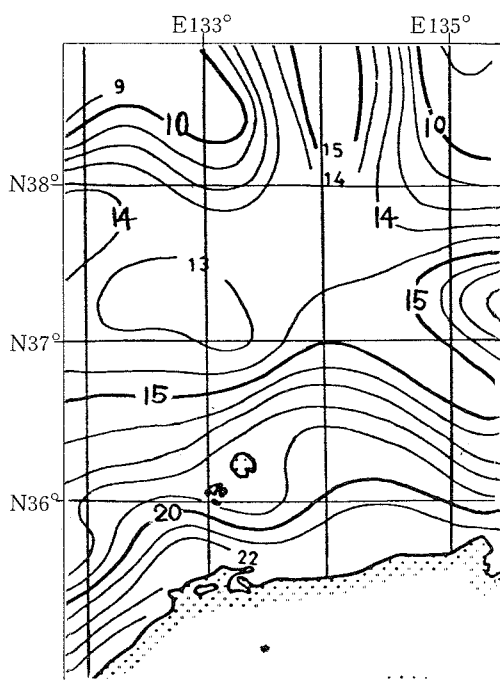


1978年7月上旬
50m層

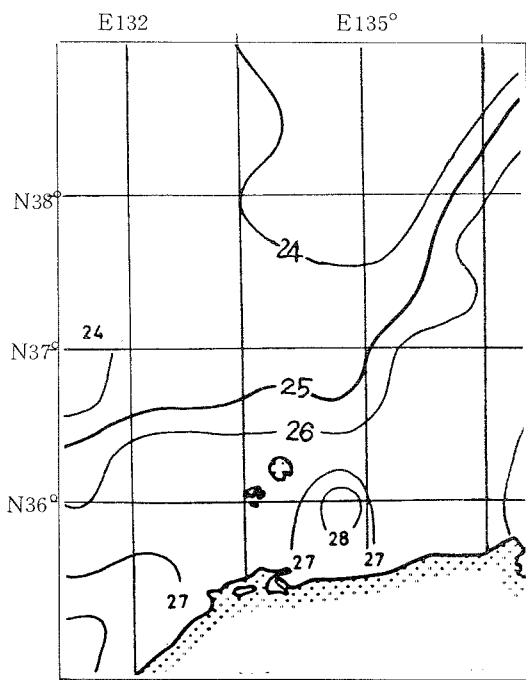
図13-(2) 鳥取県沖合の水温水平分布図



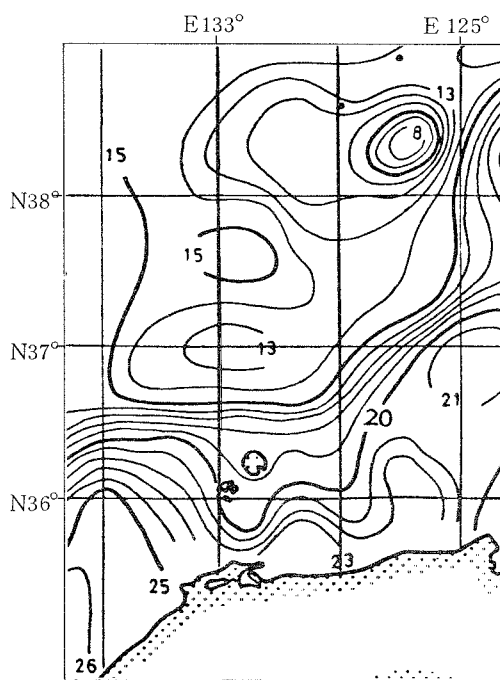
1978年8月上旬
表面水温(°C)



1978年8月上旬
50m層

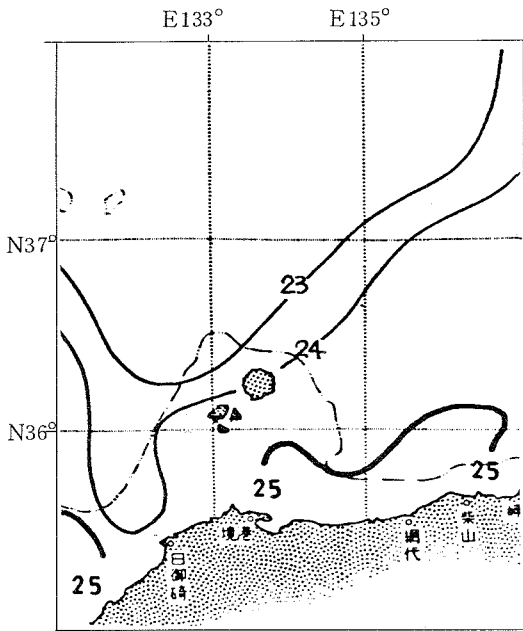


1978年9月上旬
表面水温(°C)

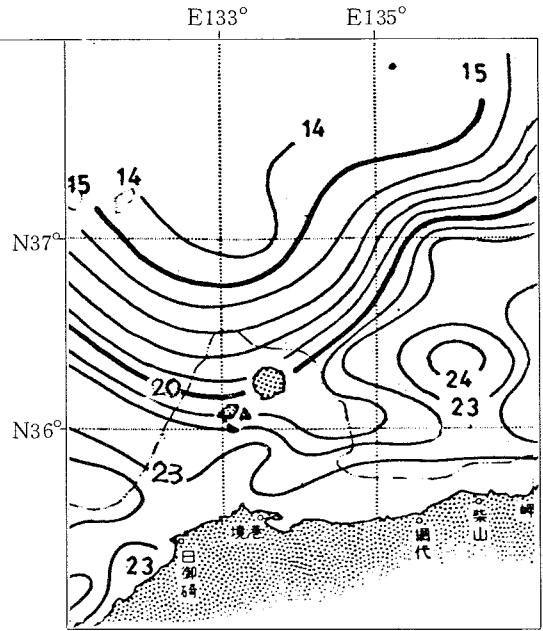


1978年9月上旬
50m層

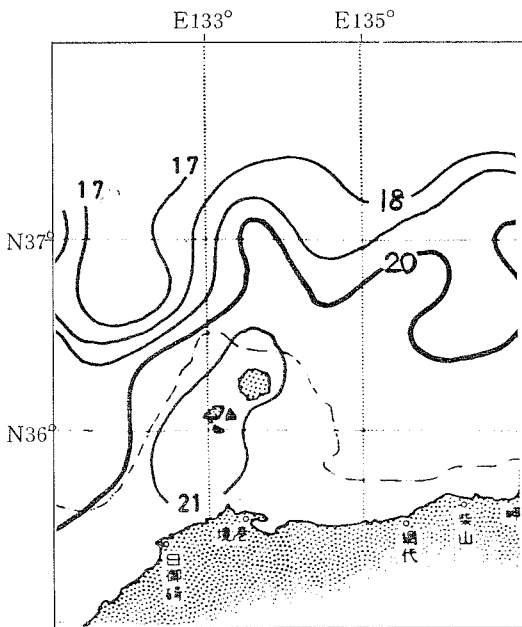
図13-(3) 鳥取県沖合の水温水平分布図



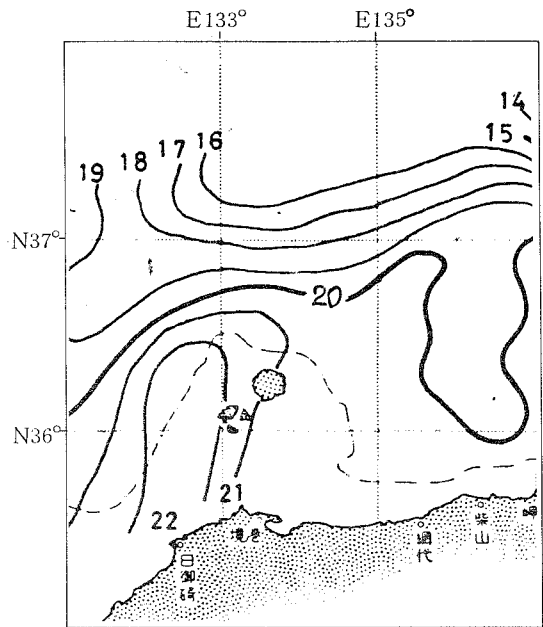
1978年10月上旬
表面水温(°C)



1978年10月上旬
50m層

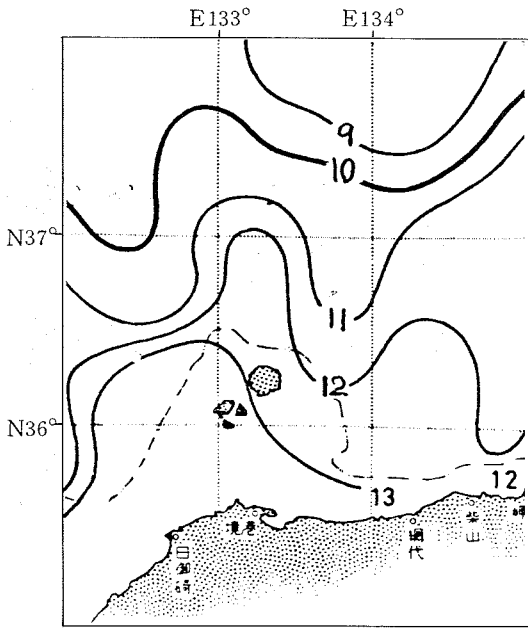


1978年11月上旬
表面水温(°C)

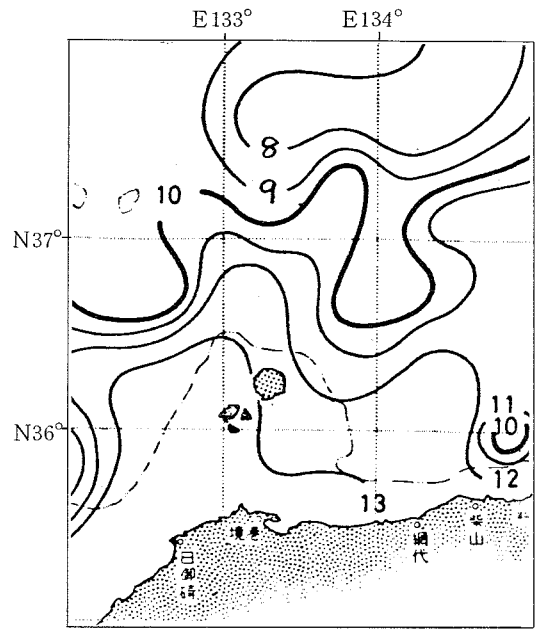


1978年11月上旬
50m層

図13-(4) 鳥取県沖合の水温水平分布図



1979年3月上旬
表面水温(°C)



1979年3月上旬
50m層

図13-(5) 鳥取県沖合の水温水平分布図